

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信 NO 2

2001年 8 月

事務局：高木神経科医院ダイケアおいけ内

〒604-0845 京都市中京区烏丸御池上ル都ビル 2 階

TEL 075(222)0452 FAX 075(222)1052

9月例会のご案内

9 月の例会は、事例検討会を行います。

病院から退院された患者さんが地域で暮らせるように、社会復帰・社会参加に向けて病院や作業所・保健所などが連携して援助したケースの検討です。うまくいった事例と課題を残した事例から連携について考えます。奮ってご参加ください。

日 時 2001年 9 月 1 日（土）14:00 ～ 17:00

会 場 京都市職員厚生会「職員会館かもがわ」第 5 会議室

住 所 京都市中京区土手町夷川上ル末松町 284

☎075-256-1307

内 容 事例検討会

テーマ 「社会復帰への援助 関係機関の連携について考えよう」

事例提供者 栗津 佳子氏 京都市北保健所
久保 修 氏 共同作業所 友輪館

7月例会の報告

実施日 2001年7月7日(土) 14:00 ~ 17:00
会 場 京都市職員厚生会職員会館かもがわ第5会議室
テーマ 「新任者研修パート1 ~PSWとして働いていること」
参加者 26名

7月の例会は「新任者研修パート1」として、新任の方々のPSWとしての現在を持ち寄り、整理してみたり助言を受けたりする機会になればと企画されました。やはりこのような場が待たれていたのが就職してからまだ数年という人を中心に先輩も混ざりながら26人もの参加があり、会場はいっぱいになりました。

最初は話題提供

まずPSW歴7年目の藤田 尚さん(第二北山病院相談室)の話題提供。「最初で最後のソーシャルワーカー・・・」と言われながら病院に初めて配属された福祉職PSWが、どのように職場に溶け込み、仕事を作り上げ、7人のPSWが配置されるまでになったのかを話してくださった。

就職した当時は、机をどこに置くかも決まっておらずとりあえず看護スタッフ室に。それが良かったと。訪問チームの一員として“訪問”という枠組みのある仕事に従事。そこで他の職種の人に育ててもらった。地域で生活している人の中に入ると、PSWとしてやるべきことが“ワンサカ”あった。DrやNSから「この人には〇〇が必要や。これはあんたの仕事や」と言われ、家捜しや生活保護の相談など生活に関わるいろんな問題がPSWの仕事として回ってきた。最初はどのように対処すればいいのかわからず手探りの状態であったけれど、一つ一つに立ち向かっていく中で、生活者の視点からのニーズや課題が見えてきた。また「何があっても慌てない」ということも心掛けるようになった。

今後輩には、実際の援助場面で“深くこだわっていく姿勢”を伝えていきたいと静かに熱い思いを語られた。

「PSWが病院に配属された事によって何が変わったか？」という質問には、「それまではパワーのある人しか退院していかなかったが、パワーの低い人でも退院していくようになった」と社会復帰への援助の中でPSWの果たしている役割の大きさを紹介してくださった。

PSW歴3年目の宮崎彰造さん(アスロード)は、社会復帰施設でのPSWの仕事を紹介してくださった。

生活訓練施設は当直があり、ユーザーの夜の顔が見える。その夜の顔は、昼の顔とは違うことを知った。例えば、昼間はきっちりしている人が夜に妄想など症状の部分を出したり、昼間はおとなしい人が、夜他のメンバーさんとしつかり交流したりしている。もしかしたら、他の援助者や家族には見えないものや伝わっていない思いを見たり聞いたりして

いることがあるのかもしれない。またアスロードを出、アパートなどで一人暮らしをする時のユーザーの不安もひしひしと伝わってくる。それは、本当に大きい。そんなユーザーの姿や思いを医師や家族にしっかり情報提供する事で、考えや捉え型が変わってくることがあり、ユーザーの為になっていると。

社会復帰施設であるのに病院のすぐ隣にあるため、“入院の延長”と思っている人が多い。それはとても残念に思うと。

今後への思いは、長岡京市は比較的低家賃のアパートが多く、アパートに退所し一人暮らしをして行く人が多いようだが、その人達のサポート活動をしていきたいと考えているとの事だった。

グループセッション

『今自分達がしている仕事のしんどさなどを出し合おう』という事で、三つのグループに別れてミーティングをしました。話し合うテーマは①援助職として自分のしている仕事を具体的に紹介する、②その仕事の中でわからない事はどんな事？③今先輩から教えてもらっている事、学びたいと思っている事は何？という事でした。

各グループとも和やかな雰囲気でした。他の職場のことを知ったり、先輩の話に耳を傾けたりしながら、人権や専門性についての意見交換ができたようです。身近に相談したり愚痴が言えたりできる人が大切だという意見もあり、PSWのセルフヘルプグループがあればいいなという意見も出ていました。

7月例会の感想

亀海 聡（第二北山病院）

今回の例会は新任者研修会という事で、第二北山病院の藤田氏とアスロードの宮崎氏に話題提供していただき、その後それをもとにグループ討議するといった内容でした。

藤田氏は病院のPSWとしての話をし、病院に初めてPSWとして入職して、PSWのスーパーバイザーがいない状況で病院のいろいろな職種の人達に育てられ、PSWとしての仕事を模索していき今の仕事を確立していったというものでした。宮崎氏は施設のPSWとしての話をし、利用者の昼の顔、夜の顔が違うといった話が印象的で、PSWでも病院と施設とでは役割や仕事の内容が違っていると改めて感じました。

今中堅、ベテランの方々も、最初はいろいろな苦労や悩みを抱きそれを乗り越え今こうして中堅、ベテランとしての技量を身に付けてやっていっているのだと感じました。

グループ討議では、同じPSWでもいろいろな現場で働いている人がいて、普段聞けない他の現場で働いているPSWの仕事内容が聞けて、大変興味をもてました。また、新任者はやはり仕事上の悩み、上司との考え方が合わないなど悩みが多いようでした。

今回の例会は、グループ討論を通して他のPSWと交流ができ、大変良かったと思いますが、これからもこのようなグループ討論などを通して、新任者のPSWとしての不安や悩みを、経験豊かな中堅、ベテランのPSWが相談に乗ってくれて解消してくれるような新任者研修になればと思いました。

事務局からのお知らせ

- 1) 「京都精神障害者の人権を守る会」(代表 多芸正之氏)より、「池田小学校児童殺傷事件についての緊急共同抗議声明」への賛同依頼文書が事務局宛に送付されています。ご入り用の方は、事務局までご連絡ください。
- 2) 「無年金障害者をなくす会・きょうと・学生無年金障害者の訴訟をすすめる会」より、学生無年金障害者の訴訟支援の依頼がありました。協会として賛同・支援していくこととします。
- 3) 立命館大学産業社会学部人間福祉学科開設記念行事に会長が出席しました。
- 4) 大阪教育大学付属池田小学校児童殺傷事件についてアンケートを同封します。どういう形になるかわかりませんが、結果を皆さんと共有したいと考えています。ご協力をお願いします。
- 5) 精神保健福祉士国家資格模擬試験が、12月頃に開催される予定です。詳細がわかり次第ご案内します。
- 6) 当協会会員は、2001年8月8日現在118名です。

編集後記

7月の例会では初めて会う人が多かった。

ここ数年病院やクリニックでPSWの採用が増えており、エネルギーで頼もしい。

9月例会は“連携”がテーマであるが、事務的な連携よりお互いをよく知った仲でこそ、実りある連携ができる。京都精神保健福祉士協会に加入する人が増え、協会内での交流がもっと広がっていけばと思う。

大阪教育大学付属池田小学校児童殺傷事件の後、住民の方からの「近所に大声で騒ぐ人がいる」との相談が数件あった。しかし保健所が関わっている障害のある人からは、直接的な相談はなかった。安堵していたら、「あれ以降、外出できなかつたんです」と少し元気になった人が教えてくれた。また、事件後自傷行為に及んだ人の情報が入ってきた。本当は、あのマスコミ報道で多くの人々が傷ついている!!

それにしても今年の夏は暑い。爽やかな秋が待ち遠しい!!